

# ローゼ・クラン台本\_Story5

---

百合の一族-リーリエ・クラン-

## 収録形式

フォルダ名 : rc\_05\_キャラクター名

ファイル名 : 台詞番号\_05

収録形式 : 44100hz 16bit モノラル wav

## 台詞数

◆総台詞数 : 479

◆内訳

オルトヴィーン : 96

アンネローゼ : 34

マルガレーテ : 58

アウグスト : 41

リコ : 32

ユリアーネ : 15

カーリン : 32

クラーラ : 32

ヨアヒム : 69

ラザファム : 70

番号	キャラ名	台詞	ト書き
<b>Scene1</b>			
001	マルガレーテ	ああ、今日もいいお天気。	空気の澄んだ朝。マルガレーテは庭を散歩している。
002	マルガレーテ	……あら？ 何かしら、今茂みから音が……	歩いていると、茂みがガサリと揺れる音がある
003	マルガレーテ	！ あなたは誰？	茂みに近づくと、一人の少年がそこにいた。
004	リコ	あちゃー、見つかったか	立ち上がる少年
005	リコ	ごめんごめん、驚かせるつもりはなかったんだけどさー、ちょこっと失敗しちゃってね	
006	マルガレーテ	失敗……？	不思議
007	リコ	おっと、失礼 こちらの話。 んじゃま、そういうことで……	去っていこうとする少年
008	マルガレーテ	ま、待ってください、あなたはだあれ？ お洋服もボロボロじゃない、いけないわ、そんなのじゃ……	少年を呼びとめる
009	リコ	ボロボロって……まあ、確かにあんたみたいに綺麗に着飾ってるお嬢さんからすりゃ、ぼろきれみたいなもんだろうけど。 はあ、俺はリコ。 あんたは？	諦めて名乗る
010	マルガレーテ	え？ あ、わ、わたしは、マルガレーテ。 マルガレーテ・エバールです。	
011	リコ	へえ、マルガレーテ。 あんたはかなりのお人好しさんみたいだね。 でもま、余計なお世話ってこった。 俺は急ぐんで、悪いけど、このぼろっきれを着たまま失礼するよ 勝手にあんたの家の庭に飛び込んだのは謝る。いつかお詫びするよ。 そんじゃあね！	首に巻いているマフラーをばさりと巻きなおす、すると、
012	マルガレーテ	あ、ちょっと待っ…… え？	リコが鳥に変化し、飛んでいった。
013	マルガレーテ	……今、彼、鳥になった……？	驚き
014	アウグスト	おーい、マルガレーテ！	遠くから呼びかけてくる声
015	マルガレーテ	！ アウグスト様、	
016	アウグスト	こんなところにいたのかい？ 探したよ。	駆け寄ってくるアウグスト
017	マルガレーテ	あ…ごめんなさい、お散歩をしていたら、その……見知らぬ男の子がいて	
018	アウグスト	見知らぬ男の子？	

番号	キャラ名	台詞	ト書き
019	マルガレーテ	ええ。でも、行ってしまったのです……	心配そうに
020	アウグスト	……。まあ、君に何かあったわけじゃなかったのなら良かった。それよりほら、早くお戻り。今日はお客様が来るんだらう？	
021	マルガレーテ	あ！ そうだったわ、いけない、……。私ったら、すっかり忘れていました。すぐ戻ります。	

## Scene2

022	マルガレーテ	良く来ていただきました、お待ちしていましたのよ、——ホーネッカー男爵。	客人を迎えるマルガレーテ。 客人 2 人とマルガレーテ、アウグストで卓を囲み、お茶を飲んでいる。
023	オルトヴィーン	僕は爵位を継いでいないから、オルトヴィーン、で良いですよ、マルガレーテ。	
024	マルガレーテ	まあ、そうなのですか？ でも、ホーネッカー男爵が来られると母が言っていたのに……	
025	オルトヴィーン	ははは、まあ確かに、ホーネッカーは僕の——養父だったけれど、僕は継いだつもりはないので。……ところで、マルガレーテ、そちらの男性は？	カップをテーブルに置く
026	マルガレーテ	あ、……。この方は、アウグスト・ファティ伯爵。ええと、私の……	婚約者、というのが少し恥ずかしい（照れる）
027	アウグスト	婚約者、です。よろしく、オルトヴィーン	
028	オルトヴィーン	へえ、婚約者か。よろしく、伯爵。	
029	アウグスト	伯爵はよしてくれよ。アウグスト、で構わない。	後半、眩くように
030	オルトヴィーン	そう。分かったよアウグスト。 ……………君と僕、少し似ているね。	
031	アウグスト	え？	
032	オルトヴィーン	ふふ、なんでもないさ。	
033	マルガレーテ	……あ、オ、オルトヴィーン様こそ、そちらのお嬢さんはどなた？ とても可愛らしい方ですね	
034	オルトヴィーン	ああ、彼女は、	オルトヴィーンが紹介しようとしたのを遮って
035	アンネローゼ	アンネローゼよ。オルトヴィーン様の「妹」。よろしくね、マルガレーテ、アウグスト。	
036	マルガレーテ	妹さんがいらしたのですね。そういえば、そんな話を母に聞いたような……	
037	アウグスト	とても美しい兄妹だ。並んで座っているだけで絵になる。	素直に感心して

番号	キャラ名	台詞	ト書き
038	オルトヴィーン	ははは、ありがとう、アウグスト。	
039	マルガレーテ	あ、お茶のおかわりはいかがが……って、まあ、もうポットにお茶が入っていないわ。メイドに新しく淹れてもらうよう伝えてきます。	ポットを持ち上げる 言いながら、立ち上がる
040	アウグスト	ああ、僕も行こう。	二人、揃って去る
041	アンネローゼ	……マルガレーテ。 素敵な子ね、兄さま。	うっとりとして。マルガレーテを気に入った模様
042	オルトヴィーン	アンネ、マルガレーテは駄目だよ。	
043	アンネローゼ	あら、どうして？	
044	オルトヴィーン	彼女は、………特別なんだ。	少し迷ってから
045	アンネローゼ	特別？ 兄さまの特別なんて…… ああ、でも確かにそうかも。 プラチナブロンドの髪に、クランベリーみたいな色の瞳。…… “アンネローゼ” ね。	“アンネローゼ”は少し強調して
046	オルトヴィーン	……。	苦笑
047	アンネローゼ	ふふふ、とてもよく似ているわ。 どうしてかしら？	
048	オルトヴィーン	さあ、どうしてだろうね。 皆目見当もつかないよ。	嘘。目を閉じながら言う。
049	アンネローゼ	嘘ね。 兄さまって嘘を吐くとき、目を閉じるのよ。知ってた？ ……教えてくださらないの？	楽しそうに
050	オルトヴィーン	ははは…… そんなクセがあったなんて知らなかったよ。 ……まあ、いずれ、ね——……	苦笑しながら。

### Scene3

051	ユリアーネ	……カーリン、クララ。	リーリエたちの「城」にて。ベッドに横たわるユリアーネ
052	カーリン	はい	※カーリンとクララの台詞、同時に。
053	クララ	はい	
054	ユリアーネ	傍へ。 血を分けておくれ	
055	カーリン	もちろんですわ	
056	クララ	いくらでも あなたのために	二人、ユリアーネの傍へ

番号	キャラ名	台詞	ト書き	
057	ユリアーネ	ん…………… ……………はあ……………ふ、……………ふふふ……………生き返るようだ	二人の首筋に手を当て、「血を分け与えてもらう」ユリアーネ。気持ちよさそうに。	
058	カーリン	ユリアーネさま……………		
059	クララ	最近、頻繁に血をお求めになられます		
060	カーリン	もしかして、足りないのでは？		
061	クララ	わたしたちだけでは、力不足なのでは？		
062	ユリアーネ	ふふ……………そういうわけではないさ でも、そうだな…………… もう一人くらい、美しい少女が傍にいてくれたら、嬉しいかもね		身体を起こすユリアーネ
063	カーリン	……………		クララと目を合わせる
064	クララ	……………		カーリンと目を合わせる
065	ユリアーネ	……………なんて、ね ただの独り言さ。 聞き流しておくれ		※カーリンとクララの台詞、同時に
066	カーリン	……………イエス マム		
067	クララ	……………イエス マム		
068	ユリアーネ	……………さあ、もう下がって良い。 いつもすまないな、カーリン、クララ。		
069	カーリン	かまいません		
070	クララ	わたしたちは、		
071	カーリン	あなたのためにあるのだから	※カーリンとクララの台詞、同時に	
072	クララ	あなたのためにあるのだから	二人、去っていく……………	
073	ユリアーネ	ふふ、ふふふふ……………楽しみにしているよ、カーリン、クララ……………ははは！	楽しげに	
カーリンとクララ、「城」の中の一室へと入る。そこには二人の同じ顔立ちをした少年がいる。				
074	カーリン	ヨアヒム	不機嫌に	
075	クララ	ラザファム		
076	ヨアヒム	……………何だよ		

番号	キャラ名	台詞	ト書き	
077	ラザファム	いや、言わなくて良い。分かる。	不機嫌に	
078	ヨアヒム	どうせまた、”おねえさま”の我儘なんだから		
079	ラザファム	いつもそうだ、僕たちが駆り出される		
080	ヨアヒム	知ってるんだからな		
081	ラザファム	僕たちがそのためだけに”飼われてる”ってこと。		
082	カーリン	そんな言い方は許しません		
083	クララ	美しい少女を一人、探してほしいの		
084	カーリン	ユリアーネさまが喜ぶような少女		
085	クララ	今回は失敗しないでね		
086	ヨアヒム	……チッ 分かったよ		舌打ち かなり機嫌が悪い
087	ラザファム	逆らったら殺される。やるしかない……		諦め
088	ヨアヒム	ほんとに飼われてるだけだ、僕たちは		二人、部屋を出て行く。
089	ラザファム	本当に。嫌になる。		
090	カーリン	……次こそは		
091	クララ	ユリアーネ様に		
092	カーリン	麗しき少女の血を	※カーリンとクララの台詞、同時に	
093	クララ	麗しき少女の血を		

## Scene4

094	リコ	……ん、おや、なんか血の匂いがするねえ	何もない空間から突然街はずれに現れるリコ
095	リコ	ありゃりゃ、こりゃヴァンピーアの仕業だね。可哀想に。 すっかり血を吸いつくされちまって。 まだ若い娘さんだっというのに。	干からびた女性の死体を見ながら
096	リコ	まったく、正体がバレたらどうなるかとか考えないのかねえ……ま、俺には関係ないか。さて、面倒ごとになる前に退散退散～	鳥になり、飛んでいく

番号	キャラ名	台詞	ト書き
そんなリコの姿を見ていた少年が二人……			
097	ヨアヒム	……見たか？	
098	ラザファム	見た。 あれもヴァンピーア？	
099	ヨアヒム	多分ね。 でも、あんな風に姿が変えられるようなやつがいるなんて初めて知った	
100	ラザファム	確かに。 ……まあ、邪魔はしなさそうだし放っておこう。 それより……どうだった？	
101	ヨアヒム	ああ。この先の大きな屋敷に、それはもう綺麗なお嬢さんがいるんだって、あの女の記憶にあった。	
102	ラザファム	それは良い。 さっさとその綺麗なお嬢さんを連れて行こう。	
103	ヨアヒム	そうだな 面倒だしいちいち仲良くなる必要もない。 ささっと血を吹き込んでやりゃいいさ	
104	ラザファム	ああ、そうだね ……そろそろちゃんとやらないと、本当に殺されかねないし。	
105	ヨアヒム	そうそう。 そろそろ失敗するフリも疲れたからな。	
106	ラザファム	さ、行こう。 ヨアヒム。	
107	ヨアヒム	ああ、ラザファム	二人、歩き出す……

## Scene5

108	オルトヴィーン	見事な庭だね、マルガレーテ	庭を散歩している四人
109	マルガレーテ	ふふ、でしょう？ 自慢の庭なのです。 ……と言っても、私が整えているわけではないのですが……	
110	オルトヴィーン	それでも素晴らしいことに変わりはない。誇っていいよ、マルガレーテ	
111	アウグスト	本当に素晴らしい庭だよ。 僕は特に、この薔薇の花が好きだな	薔薇の花壇を見て
112	オルトヴィーン	ああ、僕も好きだな。 ……薔薇の花は、僕たちがとても好きな花なんだ。 ね、アンネ？	
113	アンネローゼ	ええ、薔薇は大好きよ！	
114	アウグスト	……君たちは薔薇が良く似合いそうだね	
115	アンネローゼ	ふふふ、そうでしょう？ だって私たち……	

番号	キャラ名	台詞	ト書き
116	オルトヴィーン	アンネ。 ……ありがとう、アウグスト。好きな花が似合うと言われるのは嬉しいね。	アンネの言葉を遮って。
117	マルガレーテ	……あ	暫く庭を歩いていて、ふと立ち止まるマルガレーテ
118	アウグスト	? どうしたんだい、マルガレーテ	三人も立ち止まる
119	マルガレーテ	そう、この茂み……ここで今朝、男の子を見たのです……	
120	アウグスト	まだそんなことを? 気のせいじゃないのかい?	
121	マルガレーテ	でも……	
122	アンネローゼ	男の子? 一体どんな子だったの?	興味津々
123	マルガレーテ	どんな……そうね、ボロボロの服を着ていたわ……もう何日も着替えずにその服装で走り回っているような……それから茶色いキャスケットを被っていた……年齢は、多分、オルトヴィーン様と同じくらいです。	
124	オルトヴィーン	へえ……	
125	マルガレーテ	でもその子、……消えてしまったのです。見間違いかもしれないけれど、鳥になって……	
126	アンネローゼ	鳥に?	
127	マルガレーテ	ええ……か、勘違いかもしれないのですが。 ……一体誰だったのかしら……	
128	オルトヴィーン	……	考え込む
129	アンネローゼ	兄さま? 何か心当たりでもあるの?	
130	オルトヴィーン	……いや、ないけど……ただの人間ではないようだから、少し気になるね	
131	アンネローゼ	そうね。	
そんな四人を見つめている二つの影が……			
132	ヨアヒム	見つけた	※ヨアヒムとラザファムの台詞、同時に。
133	ラザファム	見つけた	
134	ヨアヒム	確かにあれは上玉だ。	
135	ラザファム	あれならユリアーネも喜ぶだろうね。	



番号	キャラ名	台詞	ト書き
136	ヨアヒム	でも、周りにいるやつらが邪魔だな。	
137	ラザファム	そうだね。 ……ねえ、もしかしてあれってさ	
138	ヨアヒム	ああ、 ……ローゼのオルトヴィーンだ。	
オルトヴィーン、視線に気づく。			
139	オルトヴィーン	……！	視線に気づいた
140	アンネローゼ	兄さま？	
141	オルトヴィーン	……視線を感じる。 それも……殺気に近い…… マルガレーテ。部屋に戻らないかい？	
142	マルガレーテ	え？ ええ、構いませんけれど、……何かありましたか？	突然の申し出に少し驚く
143	オルトヴィーン	いや、……アンネが少し身体が冷えると言うから	
144	アンネローゼ	まあ、私の所為にするなんて。 ……まあいいけれど……	ぼそっと
145	マルガレーテ	あら、まあ、ごめんなさい……気づかなくて。 確かに少し冷えますものね。 じゃあ、お部屋に戻りましょう。	
146	アウグスト	そうしよう。 僕も気づけなくてすまないね、アンネローゼ	
147	アンネローゼ	良いのよ、気にしないでちょうだい	にっこり笑って
148	オルトヴィーン	さあ、早く――……	四人、屋敷へと戻っていく
その様子を見ていた二人。			
149	ヨアヒム	……気づかれたな。	
150	ラザファム	気づかれたね。	
151	ヨアヒム	一筋縄ではいかなさそうだな。 さすが、掟破りのローゼクランのヴァンピーアってところか？	
152	ラザファム	そうだね。 ……さて、オルトヴィーンたちをどうやって退けるか……	
153	ヨアヒム	ひとまず夜まで待つしかないんじゃないか。 夜になりゃ、流石に一人になるだろうしさ	
154	ラザファム	うん。急がば回れと言うし……少し待とうか。	

番号	キャラ名	台詞	ト書き
<b>Scene6</b>			
夜が訪れる。 マルガレーテは部屋に戻り、ベッドに腰掛ける。			
155	マルガレーテ	……ふう。 お客様をおもてなしするって大変だわ…… でも、とても素敵なお姉さん……お綺麗で、お人形さんみたいで……不思議と、落ち着く……	
156	マルガレーテ	え？ ……誰か、いるの？	突然、窓をノックされた
157	マルガレーテ	……誰もいない……？ でもさっき、確かに……けどここは、三階よ……？	窓のほうへ行くが、人影はない。
158	ヨアヒム	やあ。	
159	マルガレーテ	！！ あ……あなた、どこから……？！	振り返る。すると、ドアのところに一人の少年が立っていた。
160	ラザファム	どこでもいいじゃないか	窓のほうから聴こえてくる声
161	マルガレーテ	！！ い、いつの間に……	窓の方を振り返る。そこにも少年がいる。
162	ヨアヒム	無礼は許してくれよ 口うるさいオネーサマの命令なんでね	
163	ラザファム	そうそう。 僕たちは逆らえないから。	
164	マルガレーテ	い、一体何の話……	
165	ヨアヒム	説明なんてしてる暇、ないんだよ。 ということで、	
166	ラザファム	いくよ、ヨアヒム	
167	ヨアヒム	ああ、ラザファム！	マルガレーテに襲い掛かる
168	マルガレーテ	き…きゃあ……っ！	思わず怯えて蹲る
169	オルトヴィーン	君たち。	
170	ヨアヒム	！	驚き ※ヨアヒムとラザファムの台詞、同時に
171	ラザファム	！	
172	マルガレーテ	……オ、オルトヴィーン、さま……？	恐る恐る顔をあげる
173	オルトヴィーン	君たち、誰だい？ 昼間、僕たち…いや、マルガレーテのことを見ていたのも君たちだね？	二人の傍に歩み寄る

番号	キャラ名	台詞	ト書き
174	ヨアヒム	やっぱり気づいていたか、ローゼのオルトヴィーン	
175	オルトヴィーン	……へえ、僕の事を知っているんだ	
176	ラザファム	当たり前だよ。君、有名だよ。掟破りのオルトヴィーン。……まあ、そんなことはどうでもいいんだ。	
177	ヨアヒム	僕たちの邪魔をしないでくれよ	
178	ラザファム	今回は流石に失敗できないんだ	
179	オルトヴィーン。	何の話をしているんだかさっぱり分からないけれど…… マルガレーテに手を出すって言うのなら、それを許すわけにはいかないな……	オルトヴィーンの瞳が光る。
180	マルガレーテ	！ オ、オルトヴィーン、さま……？！	驚き
181	オルトヴィーン	ごめんねマルガレーテ。少しだけ、目を瞑っていて……	
182	マルガレーテ	え？ あ……	倒れ込むマルガレーテ
183	オルトヴィーン	さて…… 君たちは何者だ？ ローゼの者じゃないね	
184	ヨアヒム	僕たちはリーリエ・クラン	
185	ラザファム	君とは違う一族のヴァンピーアだよ	
186	オルトヴィーン	へえ、そんな一族が…… 僕たち以外の種族がいたなんて初めて知ったよ。	
187	ヨアヒム	はははは！ まあ、お前は知らなくても無理ないか	
188	ラザファム	仕方なく仲間にされただけの可哀想なヴァンピーアだものね？	嫌味に
189	オルトヴィーン	っ…！	
190	ヨアヒム	……ま、僕たちだってそんなに変わりゃしないけどさ。	
191	ラザファム	でも、君よりは幾分かマシさ。誰かを人質にとられたわけでもないし	嫌味に
192	オルトヴィーン	お前たち……っ！	怒り
193	ヨアヒム	でも結局、その人質も連れてきた！	愉快そうに
194	ラザファム	そして掟破りのヴァンピーアは追放されたんだ	愉快そうに

番号	キャラ名	台詞	ト書き
195	オルトヴィーン	黙れ！	怒り
196	アンネローゼ	……兄さま？	様子を見に来たアンネローゼ
197	オルトヴィーン	！ アンネ……	
198	ヨアヒム	ああ、もしかして君が噂のアンネローゼちゃん？	
199	ラザファム	……ふふふ、人質のアンネローゼちゃん。	
200	アンネローゼ	人質……？	
201	オルトヴィーン	……いい加減、黙らないと……	
202	ヨアヒム	おお、怖い怖い	不思議
203	ラザファム	嫌だなあ、そんな怖い顔しないでよ 別に馬鹿にしているわけじゃないし、そもそも君と争いにきたわけじゃないんだよね	もう一度オルトヴィーンの瞳が光る
204	オルトヴィーン	……マルガレーテをどうするつもりだい？	全然怖がっていない
205	ヨアヒム	僕たちの仲間にするんだよ	怒りを抑えながら
206	ラザファム	僕たちの長が美しい少女をお望みでね。 ……うちのオネエサマは美しい少女が大好きなんだ	
207	オルトヴィーン	……そんなことはさせないよ	
208	ヨアヒム	僕たちも逆らえないんだよ。 さすがに殺されるのは嫌なんでね	
209	ラザファム	せっかく永遠の命を得たのに、女一人捕まえられなくて殺されるなんてばからしい。	
210	ヨアヒム	だから悪いけど、マルガレーテは貰っていくぜ	
211	オルトヴィーン	……させないって、言っているだろう？	
212	ヨアヒム	……っと、離せよ	
213	アンネローゼ	あーあ、兄さまを怒らせちゃった ふふふ！	
214	ラザファム	へえ、怒ってるんだ。 なんだってそんなにマルガレーテを大事にするのさ？	
215	オルトヴィーン	……お前たちには関係ないよ。	ぐっと強くヨアヒムの腕を掴む。そして……

番号	キャラ名	台詞	ト書き
216	ヨアヒム	うっ……！ ああああああ！	血を抜かれて苦しむヨアヒム
217	ラザファム	！ ヨアヒム！	慌ててオルトヴィーンをヨアヒムから引きはがす
218	ヨアヒム	う……うう……	苦しい
219	ラザファム	ヨアヒム、ヨアヒム……	
220	ヨアヒム	ラ、ラザ、ファム……う……あ……	苦しい
221	ラザファム	ああ、可哀想に、……待ってて、今僕の血をあげるから……	ヨアヒムの口元に首筋を近づける
222	オルトヴィーン	……リーリエ・クラン。 覚えたよ。 次来たら容赦しない。良いね？	怒っている
223	ラザファム	僕も怒ったよ、オルトヴィーン。 僕のヨアヒムになんてことを。	怒り
224	ヨアヒム	……う……ああ……	苦しい
225	ラザファム	大丈夫、ヨアヒム……僕の血をゆっくり、そう……	
226	ヨアヒム	ん、……ふ……はあ……	血をもらう
227	マルガレーテ	ん、ん……	身じろぎする
228	オルトヴィーン	…マルガレーテが起きる。 さあ、さっさと出て行ってくれ。 もしまだ残るといふのなら……	
229	ラザファム	はいはい、分かったよ。 今の状態じゃ僕たちに勝ち目はないね。 でも、……次こそは手に入れるから。	二人、立ち上がって去っていく。
230	オルトヴィーン	……ふう	
231	アンネローゼ	兄さま、大丈夫？	
232	オルトヴィーン	ああ、僕は平気だよ。 それより、マルガレーテに何もなければいいんだけど……	
233	アンネローゼ	……本当に特別なのね。 マルガレーテのこと。	
234	オルトヴィーン	……まあ、ね	
235	アンネローゼ	ふふ、嫉妬しちゃうわ。 ……それで、どうなさるの？	
236	オルトヴィーン	そうだね……とにかく彼女をこれからしばらく、一人にしないようにしなくては……アウグストに頼むかな……	

番号	キャラ名	台詞	ト書き
<b>Scene7</b>			
237	カーリン	失敗したのですか	※カーリンとクララの台詞、同時に 二人、去っていく 辟易している。苛立ち。 目覚める まだ少し弱っている
238	クララ	失敗したのですか	
239	ラザファム	……違う。 少しかクシデントがあっただけだ	
240	カーリン	もう失敗は許されません	
241	クララ	今度こそ我がユリアーネ様に	
242	カーリン	麗しき少女の血を	
243	クララ	麗しき少女の血を	
244	ラザファム	……はいはい……	
245	ヨアヒム	う……	
246	ラザファム	！ ヨアヒム、大丈夫？	
247	ヨアヒム	ん……なんとか、……ありがとな、ラザファム……お前のおかげだよ……	
248	ラザファム	気にしないで。 当然の事をしただけ。 ……それにしてもオルトヴィーン、許せないな	
249	ヨアヒム	ああ、許せない。 ……なあ、ラザファム、オルトヴィーンはどうしてあのマルガレーテって女に執着すると思う？	
250	ラザファム	さてね……何か理由があるのは間違いない。	
251	ヨアヒム	調べてみようぜ。 何か……あいつを怯ませるための方法が見つかるかもしれない。	
252	ラザファム	それはいいね。 調べてみよう……	
場面転換。ユリアーネの部屋。ユリアーネはベッドの上で楽しそうに笑っている。			
253	ユリアーネ	オルトヴィーン・ホーネッカー……ははは、なかなか楽しませてくれる相手がいたようだ。	
254	ユリアーネ	掟破りのローゼのヴァンピーア ……そういえば、彼も愛らしい少女を連れていたっけ。 ……ふふ、欲しいな。あの少女も、欲しい。	
255	ユリアーネ	美しい少女は全て私のもの。そうだろう？ ははは……！	

番号	キャラ名	台詞	ト書き
<b>Scene8</b>			
256	オルトヴィーン	……おはよう、アウグスト	朝。庭にて。
257	アウグスト	やあ、おはよう、オルトヴィーン。……どうしたんだい、そんな深刻な顔をして。	
258	オルトヴィーン	君に頼みがあるんだ。	
259	アウグスト	頼み？	
260	オルトヴィーン	そう。……マルガレーテを一人にしないでほしい。僕が良いというまでの間。	
261	アウグスト	え？ 急にどうして	
262	オルトヴィーン	どうしてもなんだ。頼むよ。彼女の婚約者である君にしかできない。	
263	アウグスト	……。…分かった。事情は良く分からないけれど、マルガレーテの傍にできる限りいるよう努めるよ。	
264	オルトヴィーン	ありがとう、助かるよ。	
鳥が飛んでいく。 鳥は近くの樹にとまり、そして少年の姿に変わった。			
265	リコ	……なーんだ、俺、間違っただけじゃ。最初にたどり着いたところに、あいついたんだ。 ……しかもどうやら困ってるごよーす。こりゃ、俺の出番かな？ へへへっ！	
266	リコ	このリコさまが助けてやるよ。待ってな、オルトヴィーン！	
リコは再び鳥になり、飛び去っていった…… その数日後			
267	マルガレーテ	……あの、アウグスト様？	少し照れている
268	アウグスト	なんだい、マルガレーテ？	
269	マルガレーテ	……最近、ずっとお傍にいてくださいますね。どうしたのですか？	
270	アウグスト	そうかな？ いつもずっと傍にいたと思うんだけど。	
271	マルガレーテ	そ、そうでしょうか……でも、なんだか今までよりもずっと長く傍にいてくださるような、	
272	アウグスト	嫌かな？	
273	マルガレーテ	い、いえ、そんなことは……！ むしろ……嬉しいです……	照れている

番号	キャラ名	台詞	ト書き
274	アウグスト	そうか。それなら良かった。	嬉しい
二人を遠くから眺めるオルトヴィーンとアンネローゼ			
275	アンネローゼ	兄さま、結局あのひとたち、あれから来ないわね	
276	オルトヴィーン	そうだね。……このまま何事も起こらなければいいんだけど。そろそろ僕たちもお暇しなくてはいけないだろうし。でも、間違いなくまた彼らは来る。……マルガレーテだけは守らないと……	
277	アンネローゼ	……どうしてそんなに、マルガレーテにこだわるの？ 私、すっごく気になるわ。	
278	オルトヴィーン	……	
どう答えようか考えあぐねているオルトヴィーンの傍に、鳥がすいっと飛んでくる。			
279	オルトヴィーン	……なんだ、鳥？	驚き 鳥から人間の姿へ
280	アンネローゼ	まあ、綺麗な鳥さんね。真っ白できらきらしているわ！	
281	リコ	よう、オルトヴィーン！	
282	オルトヴィーン	！？ 鳥が喋った…？！	
283	リコ	まあ、そう驚くなよ～ ちょっと待ってな……よっと！	
284	アンネローゼ	まあ、鳥さんが男の子に。	
285	オルトヴィーン	君……一体？	
286	リコ	俺はリコ！ お前さんを探してたんだ。	
287	オルトヴィーン	僕を探して？ 一体どういうことだい？	
288	リコ	特別用事があるってわけじゃないんだが……この街に来てるってのを風の噂で聞いてさ一回会ってみたいなって思ってたんだよ！	
289	オルトヴィーン	……何故？	訝しむ
290	リコ	そりゃ有名人だからな！ ローゼの少年ヴァンピーア ……大人にならなきゃ本来は仲間に入れてもらえないローゼクランに、特例で仲間になったっていうじゃないか。どんだけ特別な奴なのか、是非一度この目にいれときたいと思ってね！	
291	オルトヴィーン	君もヴァンピーアなのかい？	



番号	キャラ名	台詞	ト書き	
292	リコ	そうさ！	興味津々	
293	オルトヴィーン	リーリエ・クランと関係がある？		
294	リコ	まさか！ あんなベタベタ気持ち悪い奴らと一緒にしないでくれよ！ 僕はまた別のものさ。		
295	アンネローゼ	ねえあなた、今鳥さんからその姿になったわよね？ それはあなたの能力なの？		
296	リコ	ああ、そうさ！ 俺たち一族に伝わる能力みたいなもんでね。 鳥になったり、…あとはまあ、わざわざ姿を変えなくっても、勝手にあちこち通り抜けできたりするよ		
297	オルトヴィーン	そんな能力があるヴァンピーアがいたなんて。 ここ数日は驚きの連続だよ。		
298	アンネローゼ	本当ね。 ふふふ、なんだか楽しいわ！		
299	リコ	だろうね。 ま、俺たちはそこまで数も多くないし、知らなくとも無理はないさ。 それよりお前さん、困ってるんじゃないかい？		
300	オルトヴィーン	……何故分かるんだい？		
301	リコ	俺の直感さ んで、困ってるなら助けてやろうと思ってね		
302	オルトヴィーン	別に必要ないよ。 あいつらは僕がやる。		
303	リコ	ひー、怖い怖い！ 本気だねえ～ ま、それならそれでいいけどさ。 俺はただお前さんに会いたかっただけだし。 でもなんかあったら名前を呼んでくれ。リコ！ ってね。 そしたらすぐ飛んでくるよ。文字通り。		
304	オルトヴィーン	……覚えておくよ。		
305	リコ	んじゃま、そういうことで！ とりあえず俺はおさらばするよ！ 会えて良かった！ じゃあな、オルトヴィーン！		鳥になってまた飛び去っていく
306	アンネローゼ	なんだか不思議なひとだったわね、兄さま		
307	オルトヴィーン	そうだね でも、リーリエ・クランとは違って「悪（あく）」って感じではなさそうだ。		
308	アンネローゼ	そうね。 助けてくれるって言っていたし！		
309	オルトヴィーン	一体どういう意図があるんだか分からないけれどね。 ……それにしても僕はそんなに有名なのかな。		
310	アンネローゼ	有名なんじゃないかしら。 だって皆兄さまのことを知っているもの ……兄さまの事、いろいろと気になるわ。 これもいつかは教えてくれる？		
311	オルトヴィーン	……ああ、……いつかは、ね……		

番号	キャラ名	台詞	ト書き
<b>Scene9</b>			
夜がくる。 廊下を歩いているマルガレーテとアウグスト			
312	アウグスト	さて、マルガレーテ。 もう夜も更けてしまったね……	
313	マルガレーテ	ええ、そうですね……	
314	アウグスト	そろそろお互い部屋に戻る時間になってしまった……	
315	マルガレーテ	はい…… あの、アウグスト様。	
316	アウグスト	なに？	
317	マルガレーテ	最近ずっとお傍にいてくださる理由…教えてくださらないのでしょうか…… あ、いえ、決して嫌だからというわけではないのです。ただ、その……純粋に気になって……	
318	アウグスト	……………オルトヴィーンに頼まれたんだ。	
319	マルガレーテ	オルトヴィーンさまに？ どうして？	
320	アウグスト	理由は僕も聞いてない。 だけど、彼が言ったんだ。「マルガレーテを一人にしないでほしい」って。	
321	マルガレーテ	……	
322	アウグスト	何が起こっているのかさっぱり分からないけれど、君の傍にいられるならそれも良いかなと思ってね。	
323	マルガレーテ	！ ま、まあ……もう、アウグスト様……	照れる
324	アウグスト	ははは ……とにかく、言われた通り傍にいるんだ。 だけど、わざわざ彼がそんなことを言うってことは、君に何か危険があるのかもしれないとも思 ってね。……君を守るために、僕自身、君の傍にいたいと思ってるよ。	
325	マルガレーテ	……ありがとう、ございます	照れている
326	アウグスト	……オルトヴィーンに負けたくもないし	眩き
327	マルガレーテ	え？	
328	アウグスト	いや、なんでもないよ。 さて、そろそろおやすみ。マルガレーテ。 さすがに結婚前に君の寝室に入るわけにもいかない。	
329	マルガレーテ	あ、そ、そうですね…… 分かりました。 おやすみなさい、アウグスト様。	
330	アウグスト	ああ、おやすみ、マルガレーテ。	

番号	キャラ名	台詞	ト書き	
マルガレーテ、部屋に入る。				
331	アウグスト	……ははは、嫉妬かな、これ。みっともないな……	苦笑	
アウグストも部屋へ向かう。 場面転換。マルガレーテの寝室。マルガレーテは眠っている 窓が開いて、二人の少年が入ってくる……				
332	ヨアヒム	……今夜こそは逃がさないぞ		
333	ラザファム	そう、逃がさない。		
334	オルトヴィーン	ようやくお出ましかい。 ずいぶん遅かったね。		扉を開けて入ってくるオルトヴィーン
335	ヨアヒム	！ オルトヴィーン……		身構える
336	ラザファム	なんだ、待っていてくれたんだ		挑発
337	オルトヴィーン	ああ、待っていたよ。 ……ふふ、君、回復したようだね。良かったじゃないか。		ヨアヒムに向かって
338	ヨアヒム	ああ、おかげさまでな。		ちょっと怒り
339	ラザファム	ねえ、言ったよねオルトヴィーン…… 僕たち、次こそは彼女を手に入れるって。それなりの準備をしてきたってことくらい、分かっているだろう？		
340	オルトヴィーン	まあ、そうだろうね。 それで、何を持って来たっていうんだい？		
341	ヨアヒム	マルガレーテとお前の関係について。		
342	オルトヴィーン	！		
343	ラザファム	調べさせてもらったよ、オルトヴィーン。 君……このエバール家の出身なんだね。		
344	ヨアヒム	まあ何百年も昔のことだけど。 つまり、マルガレーテはお前の子孫なわけだ。		
345	ラザファム	だからこんなにも必死で守ろうとしているんだね。		
346	オルトヴィーン	……それがどうしたって言うんだい？		動揺を隠して
347	ヨアヒム	いやあ、驚いたよ！ お前、何百年と昔のエバール家の主人の妾の子で、妹と一緒にローゼの村の近くに捨てられて、それでヴァンピーアになったんだってな。		
348	ラザファム	妹を人質にとられてね。		

番号	キャラ名	台詞	ト書き
349	オルトヴィーン	……っ	
350	ヨアヒム	でもその妹も死んだ。 じゃあ、今傍にいるあの少女は誰だ？	
351	ラザファム	妹の身代わりかな？ ふふ、身代わりの愛玩人形を見つけるなんて、冷酷なヴァンピーアらしい…	
352	オルトヴィーン	違う！ アンネはそんなのじゃない！	
353	ヨアヒム	へえ、違うのか？ でもずいぶんと似てるじゃないか。 目の色以外はさ。	
354	ラザファム	そう、目の色……それもまた、マルガレーテに執着する理由の一つだね？	
355	ヨアヒム	マルガレーテの瞳はクランベリーみたいな色。 そしてお前の妹も、そんな色の瞳をしていた…… そしてプラチナブロンドの髪。 マルガレーテは、お前の妹の生き写しなんだ。	
356	ラザファム	だからなんとかして守ろうとしている。 以前は守りきれなかった妹のかわりに、かな？	
357	オルトヴィーン	……黙れ	
358	ヨアヒム	でも悪いな、僕たちも必死なんだよ	
359	ラザファム	だからマルガレーテはもらっていく	
360	ヨアヒム	お前はまた守れないんだ！	
361	ラザファム	ははははははは！	嘲笑
362	オルトヴィーン	黙れ！	ヨアヒムの腕を掴む
363	ヨアヒム	おっと、また血を奪うつもりか？	
364	ラザファム	そうしたって今度は帰らないよ。 マルガレーテを連れ去るために命を懸けるって二人で決めたんだ。	
365	ヨアヒム	どちらかが死んだって……マルガレーテさえ奪えればそれでいい。 そう決めた。	
366	ラザファム	だからもう、それぐらいじゃ怯まないよ。 好きにしまよ、さあ、僕の兄を奪ってごらん あはははは！	挑発
367	オルトヴィーン	お前たち……っ	
368	ラザファム	さて、マルガレーテ……	マルガレーテを抱き起す
369	オルトヴィーン	！ マルガレーテに触れるな！	

番号	キャラ名	台詞	ト書き
370	ラザファミ	嫌だよ 連れて行かなきゃいけないんだから	
371	ヨアヒム	それより手を離せよ。 どうせ無駄なんだからさあ！	
372	オルトヴィーン	…っ	
373	ラザファミ	よっと…… うん、これだけ綺麗な少女なら、ユリアーネも満足するだろうね。	マルガレーテを抱き上げる
374	ヨアヒム	ああ、間違いないな。	
375	オルトヴィーン	連れて行かせたりしない、絶対に……！	
376	ラザファミ	強がらないでよ もう君に勝ち目はないよ。	
377	ヨアヒム	なんならマルガレーテを起こして全部ぶちまけたって良いんだぜ？ お前のご先祖様はヴァンピーアになってます、ってな！	
378	オルトヴィーン	……	どうしたものか必死に考えている
379	リコ	……まあ…たく、困ったら呼べて言ったのにさあ！	飛び込んでくる白い鳥
380	ラザファミ	なんだ、鳥…？	
381	ヨアヒム	！ この鳥……見覚えがあるぞ…… まさか	
382	リコ	よう、オルトヴィーン！	少年の姿に変わる鳥
383	オルトヴィーン	……リコ	
384	ラザファミ	あのときのヴァンピーアか……！	
385	リコ	さてさて、無理矢理お嬢さんを連れて行こうとするのはよくないなあ？	振り返り、二人に言う
386	ヨアヒム	お前には関係ないだろ	
387	リコ	そうだねえ、確かに関係はないんだけどさ。 俺、そのお嬢さんにも借りがあるからねえ …ってことで、さくっとその子助けないといけないんだ。分かってよね。	リコ、手を二人に向かって伸ばす。すると……
388	ラザファミ	っ……なんだ、血が……っ うあっ	苦しみだす。血を抜かれている。 思わずその場に膝をつく
389	ヨアヒム	くっ……お前、何、……… ああっ！	ラザファミと同じく。 思わずその場に膝をつく
390	リコ	リーリエの血って独特なんだよねえ。 なんていうか粘っこいんだ。 取り込むのはあんまり好ましくないねえ。 ま、今は仕方ないんだけど。	

番号	キャラ名	台詞	ト書き
391	ラザファム	ま、さか……触れずに、血を……うっ……	苦しい
392	ヨアヒム	そ、んなこと、まで、できるのか…… お、まえ、いったい……なにもの、だ……？！	苦しい
393	リコ	俺はリコ。 ただの放蕩ヴァンピーアさ！	笑顔で
394	ラザファム	っ……く……あ……も、う……たおれ……	倒れそうになる
395	オルトヴィーン	！ マルガレーテ！	慌ててマルガレーテを救出に行く。マルガレーテを奪い取り、その直後ラザファムは倒れる
396	ヨアヒム	う…くそ……あ……ああ……っ…う……	苦しみながらヨアヒムも倒れる
397	ラザファム	ヨア、ヒム……あ……ああ……	苦しい
398	リコ	ふう。 お嬢さんも無事とり返せたし。こんなもんで大丈夫かな？	手を下げる
399	ヨアヒム	あ……ああ……	苦しむ
400	ラザファム	う……あ……う……	苦しむ
401	オルトヴィーン	君……本当に一体何者なんだ……	驚きを隠せない
402	リコ	だから、ただの放蕩ヴァンピーアさ。 で、お嬢さんは大丈夫そうかい？	
403	オルトヴィーン	え？ あ、ああ……なんとか……	腕の中のマルガレーテは静かに眠っている。
404	カーリン	失敗したのですか	※カーリンとクララの台詞、同時に
405	クララ	失敗したのですか	
406	オルトヴィーン	！！	驚き
407	カーリン	無様な姿になって	
408	クララ	なんて醜いのでしょう	
409	カーリン	これではユリアーネ様に顔向けできません	
410	クララ	二人に罰を与えなくては	
411	ヨアヒム	っ……カーリン、クララ……	

番号	キャラ名	台詞	ト書き
412	ラザファム	君たち……見ていたのか……っ	自嘲
413	カーリン	見ていました	
414	クララ	最後まで	
415	ヨアヒム	くそっ……これで終わりか……	
416	ラザファム	はは……結局か……	
417	オルトヴィーン	……君たちは一体誰だい？	
418	カーリン	私たちはリーリエ・クラン	
419	クララ	私はクララ 彼女はカーリン	
420	カーリン	ユリアーネ様の命令により、二人を回収しにきました	
421	クララ	さあ、帰りますよ。 きつい罰を与えなくてははいけません	
422	ヨアヒム	っ……	
423	ラザファム	殺さない、のか……	
424	カーリン	あなたたちを今失うのは得策ではありません	
425	クララ	ですから罰で許してあげるのです。	
426	カーリン	感謝しなさい	
427	クララ	感謝しなさい	
リーリエ・クランの四人は去っていく……			
428	オルトヴィーン	……リーリエ・クラン……一体、何なんだ……？	リコ、鳥になって去っていく……
429	リコ	んー、俺も良くは知らないんだ。 ただ、とりあえずそりゃもう綺麗な女が大好きな一族らしいぜ。 今日一緒にいたお嬢ちゃんも気をつけなよ。 狙われるかもしれない。 あんな上玉、リーリエのユリアーネが放っとくわけないからさ。	
430	オルトヴィーン	肝に銘じておこう。 ……それからリコ、……ありがとう。	
431	リコ	良いってことよ！ まあ、また困ったらいつでも呼んでくれよ！ 俺はいつだってお前さんを助けに行くからさ！ んじゃま、そういうことで！ また会おうぜ！	

番号	キャラ名	台詞	ト書き
432	オルトヴィーン	……	飛んでいくリコを見送る
433	アンネローゼ	兄さま！	様子を見に駆けてくるアンネローゼとアウグスト
434	アウグスト	マルガレーテ！ 一体何事だ…？！	
435	オルトヴィーン	二人とも。 ……全部終わったよ。	
436	アウグスト	何があったんだ？！ 激しい物音がして…… マルガレーテはどうした…？！	慌てている
437	マルガレーテ	ん、んん…… ……あら、……皆さん、どうしたのですか、そんな、集まって……	身じろぎし、目をさます
438	オルトヴィーン	なんでもないよ。 なんでもないんだ。 もう大丈夫だよ、マルガレーテ。	優しく
439	マルガレーテ	……？ オルトヴィーン、さま…… ! あ、あの、どうして、私を、その…抱き上げていらっしゃるの？	慌てる
440	オルトヴィーン	まあ、ちょっとね。 でももう本当に大丈夫。 さあ、アウグスト	
441	アウグスト	え、	
442	オルトヴィーン	こういうのは君の役目だろう。 ……ほら、	
443	アウグスト	あ、ああ…… ……良くは分からないけど、……ひとまずマルガレーテに何事もなかったようで良かった。	オルトヴィーンの腕からマルガレーテを抱き上げる。
444	マルガレーテ	そうですね…… アウグスト様……	アウグストに身を寄り寄せる 二人、身を寄せあう
445	オルトヴィーン	……さて、おじゃま虫は去ろうか、アンネ	
446	アンネローゼ	ええ、そうね。 そうしましょう。	可笑しそうに その場から去る二人
<b>Scene10</b>			
447	マルガレーテ	行ってしまうのですね……	朝、別れの時。 寂しい
448	オルトヴィーン	うん	
449	アウグスト	また是非遊びに来てくれ	
450	アンネローゼ	ええ、もちろんよ	



番号	キャラ名	台詞	ト書き	
451	オルトヴィーン	それじゃあ、僕たちはこれで。	去っていく二人	
452	アンネローゼ	さようなら！		
453	アウグスト	ああ、さようなら。		
454	マルガレーテ	さようならー！		手を振る
455	アウグスト	…………マルガレーテ		マルガレーテを抱き寄せる
456	マルガレーテ	あ……アウグスト様、		
457	アウグスト	オルトヴィーンはもう大丈夫だと言ったけれど……僕はこれからも、ずっと君の傍にいるからね。今度は僕がちゃんと君を守るんだ。		
458	マルガレーテ	アウグスト様…… はい……ありがとうございます……！		嬉しい

## Scene11

459	カーリン	ユリアーネ様	※カーリンとクララの台詞、同時に  ベッドの上で二人を迎えるユリアーネ  跪く二人	
460	クララ	ユリアーネ様		
461	ユリアーネ	お帰り、お前たち 待っていたよ		
462	カーリン	申し訳ございません		
463	クララ	申し訳ございません		
464	カーリン	あなたに麗しき血をお渡しすることが、また叶いませんでした		
465	クララ	どのような罰も受け入れます。 どうぞ……		
466	ユリアーネ	顔をおあげ。 ……別に構わないさ		
467	カーリン	しかし……		※カーリンとクララの台詞、同時に
468	クララ	しかし……		
469	ユリアーネ	それよりも……あの、オルトヴィーン。 彼の連れているという少女が気になるね	クララと目を合わせる	
470	カーリン	……		

番号	キャラ名	台詞	ト書き
471	クラアラ	……	カーリンと目を合わせる
472	ユリアーネ	とても可愛らしいそうじゃないか。 ……ほしいな。	
473	カーリン	……分かりました	※カーリンとクラアラの台詞、同時に
474	クラアラ	……分かりました	
475	カーリン	今度こそ	
476	クラアラ	我らがユリアーネ様に	
477	カーリン	麗しき少女の血を	
478	クラアラ	麗しき少女の血を	※カーリンとクラアラの台詞、同時に 去っていく二人……
479	ユリアーネ	ふふふ……楽しみだよ、オルトヴィーン。 君とは良いライバルになれそうだ。 ふふふ……ははは、あははははははははは！	

**To Be Continued...**